

書籍紹介



hakuhodo+design/studio-L 著
NTT出版 刊

「震災のためにデザインは何が可能か」



この号が発行される頃には、東北地方太平洋沖地震から早くも半年近くが経過していると思います。その日、私は特許庁庁舎で地震に遭いましたが、庁舎内での揺れもすさまじかったことをよく覚えています。地域により程度の差もあると思いますが、その瞬間から被災地域でなくとも日常生活のありかたさえ一変したと感じた方は少なくないと思います。

毎日、震災後に生じた問題とその影響、それらに対する社会の動きが分野を問わず報じられ、震災後の今の生活について考えさせられない日はありません。

本書では、日本社会が抱える多くの課題、リスクのうち、「震災」をテーマとし、その解決を図るための26のデザインが提案されています。「震災」がテーマですが、その内容は災害発生時の対応、防災についてということではなく、災害が起きた後のためのものが主となっています。また、災害後に生じる問題は多岐に渡りますが、特に避難生活下での問題に焦点を当てています。

阪神・淡路大震災レベルの首都直下型大地震が起きた際の避難生活を想定しているのですが、そこで生じる問題は、インフラが機能しなくなることに起因する物資の不足など、物質面のみに限ったものではありません。面識のない多くの人と同じ空間で生活することになる環境の中で、人同士のかかわりにより生じる問題も多く含まれています。

本書の第2章でその首都直下型大地震が起きた後に想定されうる具体的な避難生活の様子が示され、それを読むだけでも物資以外の点で実に多くの問題が生じるのが見て取れます。第3章から第7章で具体的なデザインが提示されていますが、個人的には、限られた水を有効活用するた

めのデザインと、女性のプライバシーを保護するためのデザインの提案が興味深く、印象に残っています。

例えば、第6章「溝を埋めるデザイン」の中で、着替えなど完全な個室が必要になる場面が女性には少なくないにもかかわらず、個室がトイレのみという状況下において、女性専用のサンタリールームを用意することによるトイレの混雑回避と女性のプライバシーの保護という問題解決が提案されています。

また、インフラの欠如による物資の不足、生活の困難は、地震によってのみ引き起こされるものではなく、あらゆる場面が想定されます。巻末では、水問題や貧困など途上国での問題、さらに過疎問題や都市の交通問題などの、社会に存在するありとあらゆる問題に対する解決手法としての社会的デザインの先進事例が、国内外を問わず紹介されています。

まだまだこの度の震災による課題は山積されており、地震後に相次いだ津波、原発事故により、避難生活の状況もこの本での設定を超えるものではないかと思えます。しかし、本書で提示される課題とデザインによる解決への手法は、震災下以外の場面でも共通し、応用が可能なものであり、本書ではそうしたデザインの汎用性にも言及されています。提案されたデザインはコミュニケーションを円滑にするためのものなど、災害時に限らず日常でも存在する課題とも深くかかわるものです。震災について考えると同時に、新たな問題意識を持つこともできる一冊ではないでしょうか。

紹介者 審査業務部生活用品 重坂 舞